

令和 5年 5月 25日

渋川市議会議長 安カ川 信之 様

渋川市議会 会派「創生渋川」及び議長・副議長 行政視察報告書

創生渋川 代表 茂木 弘伸
議長 安カ川信之
副議長 板倉 正和

- 1、視察日程 令和 5年 5月 8日（月）～ 9日（火）
- 2、視察場所 青森県三沢市・青森県上北郡六ヶ所村
- 3、視察議員 創生渋川 茂木 弘伸・反町 英孝・後藤 弘一
議長 安カ川信之
副議長 板倉 正和
- 4、視察施設・項目 (1) 三沢市役所
(2) 三沢市農産物加工施設（兼三沢市給食センター）
「特産品の開発支援事業等について」
(3) 六ヶ所原燃 PR センター・原子燃料サイクル施設

5、視察報告

(1) 三沢市役所訪問（令和 5年 5月 8日）

三沢市議会 堀 光雄議長からの歓迎ご挨拶を頂き、その後、議会事務局と産業観光課の担当者から、三沢市の概要と事業の取り組みについての説明を頂いた。



①三沢市概要

三沢市は、本州の最北端である青森県の南東部に位置し、東は太平洋を臨み、西は小川原湖を含む東北町、南は六戸町とおいらせ町、北は六ヶ所村に接している。

人口は約38,000人。渋川市の半分弱ではあるが、「空の町」とも呼ばれ、米軍・自衛隊・民間航空の三者が共同使用する空港があり、在日米軍三沢基地には所属の軍人・軍属とその家族約8,000人が生活し、市街地（飲食店街）には、アメリカの雰囲気を感じられる建物も多く、人々の共存している姿が見られた。

(2) 三沢市農産物加工施設（兼三沢市給食センター）

①特産品の開発支援事業について

ア、事業概要

特産品補助事業として、平成25年度から地元産の農畜水産物等を活用した商品の特産品の開発を促進していくため、そのために必要な経費の一部を補助する制度がスタート。

(対象となる事業)

商品の開発・改良、包装等の開発
調査研究や外部専門家の招へい
PR用印刷物やホームページ等の製作
商談会や展示会等への参加等

(対象となる経費)

旅費、印刷製本費、役務費、委託料、使用料及び賃貸料、
原材料費、備品購入費等



※主な地域資源（特産品）

ごぼう、ながいも、にんにく、だいこん、
豚肉（パイカ(軟骨付き豚バラ肉)、
やまぎきポーク、
三沢昼いか（スルメイカ）、
サケ、
ヒラメ、
ホッキ貝



イ、これまでの経緯と取り組みについて

製品の付加価値化・製品の価格向上・生産事業者の所得向上・地域介入の活性化を目指し、

○地産地消に関することで、

「三沢ほっき丼」「三沢基地空自空上げ」等、各種ご当地グルメの展開。

○物産イベントに関することで、

県内外で開催する物産イベントへのPR出展。

○特産品の開発促進に関することで、

特産品開発促進補助事業（平成25年度～）。

○特産品の販路拡大に関することで、

特産品販路開拓補助事業（令和2年度～）。

○農産水産物の加工・高付加価値化に関することで、

三沢ブランド特産品認定事業（令和元年度～）。

○農産物加工施設の管理運営に関することで、

農産物加工施設内地産加工研究室の管理・貸出および加工器取り扱いの支援。



ウ、現状の課題と今後の展開について

三沢市には、柔らかな土壌と厳しい「やませ」、恵み溢れる太平洋に育まれた多彩で秀逸な農畜水産物があり、これらの地域資源を生かし、三沢らしさを追求した魅力ある商品を「三沢ブランド特産品」として認定していくために。

○「三沢ブランド」をはじめとした特産品全体の認知度を上げるために、県内及び全国での認知度やブランド価値向上に向けた取り組みが必要。

○特産品の開発・販売量産体制強化のために、事業者等への支援、協力が必要。

○申請や認定へのメリット感向上のために、売り上げ等でメリットを感じられる実績づくりが必要。

こうしたことから、各部局や関係団体等との連携・各種取り組み・事業との相乗効果を図り、三沢市の全特産品（農水産物・加工品）の認知度や価値、売り上げ（出荷）の向上を目指す。

(3) 六ヶ所原燃 PR センター・原子燃料サイクル施設

六ヶ所村は明治22年の町村制施行によって、海岸線沿いの泊・出戸・尾駈・鷹架・平沼・倉内の6集落が合併され、「六ヶ所村」と命名された。

①六ヶ所原燃 PR センターにおける説明内容

- ア、下北半島と六ヶ所村の様子
 - イ、尾駈レイクタウンの原子燃料サイクル施設の概要
 - ウ、原子燃料サイクル施設の立地の経緯
 - ・むつ小河原開発と日本原燃のあゆみ
 - エ、地域との関係
 - ・地域活性化と地場産業の振興に貢献
 - ・協力会社『企業』数はやく1,200社、現地就労者数平均約8,000名/日
 - ・地元企業との共存共栄に向けた取り組み
 - ・地域活性化と地場産業の振興に貢献
 - オ、各事業のあらまし
 - ・ウラン濃縮工場
 - ・低レベル放射性廃棄物埋設センター
 - ・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター（海外返還）
 - ・再処理工場
 - ・MOX燃料工場
- #### ②センター内部の見学
- ・原子燃料サイクルの模型を使って施設の構造や機能の説明



③原子燃料サイクル施設見学

二重三重の厳しいチェックを受け施設内へ。PRセンターで説明を受けた施設内を見学した。施設全体は広大なために、バスに乗車しながらの説明も受けた。

※再処理施設の安全対策の強化徹底

福島第一原子力発電所の事故の反省から、大規模な自然災害（地震・津波等）への対策から新規制基準が新たに施行された。

施設における安全性向上対策の例として、

- ・ 竜巻対策（重要な施設を防護する設備を設置）
- ・ 外部火災対策（薬品貯槽を地下に移設）
- ・ 新基準に対する取り組み（重大事故等対処の訓練を繰り返し実施）
- ・ 技術力の維持向上（運転員の訓練を実施）
- ・ 国際基準レベルの分析技術力の維持向上（ウラン、プルトニウムの共同分析に参加）